

別府市公共交通活性化協議会 議事録

日 時：平成 27 年 8 月 6 日（木）14 時～15 時 50 分
会 場：別府市役所 5 階 大会議室

（事務局説明）

- ・委員 19 名のうち、5 名欠席、2 名代理出席により、設置規約第 7 条第 2 項の規定を満たしているため、会議の成立を報告。

1 報 告

（1）委員の交代について

- （事務局説明）省略
- （質疑応答）なし

（2）第 2 回協議会の議決事項について

- （事務局説明）省略
- （質疑応答）なし

（3）別府市地域公共交通網形成計画策定調査業務委託業者の決定について

- （事務局説明）省略
- （質疑応答）なし

2 議 題

（1）別府市地域公共交通網形成計画策定調査業務の手順について

（事務局・受託業者説明）

- I 別府市における地域公共交通の現状や問題点を整理
 - ・既存資料の整理や交通事業者、住民ヒアリング実施
- II 別府市に望まれる地域公共交通の姿を検討と整理
 - ・上位計画、関連計画、諸施策との整合性
 - ・過年度成果や、他部署等の関連調査参照
 - ・特定地区の高齢者アンケートや、交通弱者を対象とした住民座談会実施
- III 別府市地域公共交通網形成計画の作成
 - ・取り組みの方向性、目標、達成状況の評価方法の検討。

【過年度調査で把握した交通弱者の生の声】

会長 : 平成 24 年度の調査で「高齢者を始めとする交通弱者が『今のバス利用は非常にづらい』との声があった」との内容について具体的に教えて欲しい。

事務局 : 平成 24 年度に特定の路線・便に調査員が乗り込んで利用者にヒアリングする「バス乗り込み調査」を実施した。バス利用上の問題点として、バス利用者からは、「便数が少ない」という指摘よりも、「バスの遅延などが発生しており、炎天下などでバスを待つのが辛い」との声が多かったほか「バスのステップの段差がきつい」などの指摘もあった。

【昼間時間帯の交通弱者・訪日外国人に視点を充てた公共交通ネットワーク検討】

委員①②：昼間時間帯の利用者が少ない時間帯に着目し、高齢者や訪日外国人の移動利便性を高める取り組みについて具体的に説明してほしい。

事務局：現状では、公共交通を必要とする利用者がピーク時間帯（通勤・通学時間帯）とオフピーク時間帯（昼間時間帯）で異なる。そのターゲットに併せて公共交通ネットワークを見直すことが必要ではないかと考える。例えば、昼間時間帯の赤字便をより高齢者や観光客（訪日外国人含む）が利用しやすい路線やダイヤに見直すことなどが考えられる。

【自治委員アンケートの詳細検討】

委員③：普段バスを利用しない自治委員に対してのアンケートでは、設問方法などの詳細検討が必要である。

事務局：ご指摘を踏まえた検討を行いたい。

【特定地区の高齢者アンケートについて】

委員①：「特定地区の高齢者アンケート」について、交通弱者の定義、特定地区の規模、調査の方法はどのように考えているのか。

事務局：1人で出歩くことができる高齢者や障害者の方などを対象にする。事前に行う自治委員アンケートにより移動実態などを把握し、「特定地区」は行政区（自治会単位）と考えている。

【国庫補助制度を見据えた検討の必要性】

委員①：地域公共交通網形成計画の作成のみならず、地域公共交通再編実施計画も作成することで、国の様々な支援が受けられる可能性が高まる。その場合、交通弱者の中に学生など高齢者以外の視点も入れていくのが良いと考える。

事務局：国の支援制度も念頭に置きつつ、検討を進めたい。

【関連計画との整合性】

会長：現在別府市が検討している地方創生に係る計画やその他上計画との整合も図る認識で良いか。

事務局：ご指摘のと通りの認識である。

3 その他

【計画検討にあたっての意見交換】

副会長：今回の調査事業を通じて、別府市のまちづくりの中であるべき公共交通の実現に向けたプランづくりを行っている。地域住民と観光客の両者の移動手段の確保は別府市の政策でもかなり重要なものであり、行政・民間・地域の人たちで話すきっかけにしていきたい。関係者の相互理解のもと、お互いに知恵を出すことが重要である。

委員④：高齢者、子育て世帯等が利用したくなる公共交通、夢のある公共交通の話をしていきたい。

委員⑤：高齢者だけではなく、子供達の利用についてもどのように利用促進できるのかを考えていけると有り難い。

委員⑥：別府市は観光を中心に経済が回っている。かつ、高齢者も住みやすいような街に変

わってきていると感じている。バス会社として地域の足を守っていくという思いで協議会に参加している。

委員⑦ : 地域の活性化の後押しになるような公共交通に関する計画をまとめるのが今回だと認識している。交通弱者と観光客であれば、やはり優先すべきは交通弱者だと考える。

委員⑧ : 地域公共交通網形成計画はまちづくり戦略との一体化が求められており、地域住民のみならず観光客の利用も見据えて計画づくりを行うべきである。

副会長 : 大分大学の学生の調査結果なども踏まえながら、より良い計画になるようにしたい。調査に関しては、学校に通いにくい児童・生徒をはじめ、交通弱者の定義は狭くない方が良好だろう。

事務局 : 公共交通の場合は、観光客もさることながら、それ以上に住民の利便性を考慮し、調査に対しても、そこを重点的に検討していきたい。

(協議結果) 原案のとおり可決する。

(15:50 終了)